

2013 猿留山道を歩く会への参加

9月28日、29日にえりも町の猿留山道を歩く会が開催されました。猿留山道（さるるさんどう）とは、江戸時代にえりもの東海岸一体を天候の不良な日でも安全に通行し、情報・兵・物資の流通を迅速に行えるように開削された蝦夷地最初の官製道路の一つで、多くの旅人が通った山道です。平成19年に文化庁により「採掘・製造、流通・往来及び住居に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（重要地域）」に選定され「北海道開拓の道」の一つに選定され、平成21年にはえりも町文化財にも指定、平成25年には北海道新聞社主催「ほっかいどうの道100選」にも選ばれています。平成14年から平成24年までの10年間、猿留山道復元ボランティア事業により、残存する山道部分が歩行できるようになり、歴史と日高南部の自然環境を学ぶ場として活用できるようになりました。今年から、「猿留山道を歩く会」として、猿留山道の保全と活用を目的とした事業を展開し、今年は2日間ではほぼ全線を歩きました。

えりも町教育委員会、北海道日高振興局、北海道教育庁日高教育局、えりも町郷土資料館 N42° の会が主催し、えりも町商工会、えりも観光協会、えりも建設協会、日高南部森林管理署、ひだか南森林組合、日高報知新聞社、北海道新聞社が後援をしています。

28日は小学生11名を含め71名が参加し、カルシコタンから猿留山道を登り沼見峠へ。そこからハート型の豊似湖へ下り、湖畔を半周する約6 km のコースを歩きました。峠まではほぼ登り道が続き、道幅も狭い部分や梯子やロープを伝い歩くスリリングな箇所もありました。けれど子供たちは元気いっぱい、歌ったり遊んだりしており、大人たちも元気をもらって歩いていました。天気も気温もちょうど良く、深い樹林を抜け、沼見峠からはえりも岬や百人浜海岸、馬蹄湖またはハートレイクと呼ばれている豊似湖がはっきり見え、参加者はここぞとばかりに写真を撮って、えりもの大パノラマを満喫していました。その後豊似湖のほとりまで散策し、期待したエゾナキウサギは見ることはできませんでしたが、湖に生息する希少生物の話聞き、参加者からは感嘆の声が上がっていました。ゴールの豊似湖の駐車場で閉会式を行い、28日の散策を終了しました。



71名だと大行列

沼見峠からの豊似湖

29日は前日のコースに比べ、歩きづらくなるため、参加人数約30名の大人で、324 m 地点からガロウの川を渡り、旧肉牛牧場までの猿留山道の残りのコースを歩きました。沢渡りや梯子で登ったり、木をくぐったりする場所ではみんなで声をかけあい手を貸したりしながら協力して歩きました。また、途中にはスズメバチの巣があり、ハチノックを構えながら静かに移動し、おかげで全員怪我もなく通過しました。札幌からの参加者もあり、都会では味わえない山道の雰囲気存分に楽しみながら歩いていたようです。最後に大観望からえりもの牧草地とえりも海岸線、太平洋を一望できる景色に感動して、2013猿留山道を歩く会は閉会しました。

今回猿留山道を歩く会に参加したことで、昔の人々の生活の一部に触れることができたほか、山道復元や保存の大切さを学べ、また、えりもの自然の豊かさを改めて知ることができました。



急斜面も協力してクリア



大観望から岬と百人浜を一望